新市庁舎建設進む

工事完了は平成30年1月末

習志野市役所の新市庁舎建設が進んでいる。

工事は6月に基礎部分の鉄筋、型枠コンクリート工事を終了した。三つの工区にわけられ、旧市役所向かい南側の1工区から順次、大型クレーン2基によって鉄骨が運ばれ、現在も着々と組み立てが行われている。教育委員会裏手の3工区も既にコンクリートの流し込みを終えた。

新市庁舎は地上6階建で、延床面積は1万8262・08㎡。ほかに土木作業員詰所、カーポート、駐輪場。高低差のある敷地の地形を生かし、地下1階部分には、保健会館前の道路から建物に入ることができ、地上1階につながる階段広場が設けられる。地下1階部分はグランドフロア（GF）とし、戸籍、転居手続きなどの来庁者の多い部署はこのフロアにまとめられる。地上1階は来庁者駐車場に近接し、福祉関係部署のフロアとなる。2階はこどもと教育の部局、3階と4階は行政事務を行う執務フロア、5階と6階は市議会フロアで、6階には展望回廊が設けられる。

地震への備えも行われ、建物基礎とGFの間に免震階を設け、防災拠点として建物全体を免震化。免震装置は天然ゴム系積層ゴム、鉛プラグ入り積層ゴム、すべり支承の3種類と減衰機構としてオイルダンパーがバランスを考慮して配置された。

建物の竣工は平成29年4月末、解体・外構などを含む工事完了は平成30年1月末の予定。

建設進む習志野市役所新市庁舎（8月25日撮影）

袖西小 今年もピカピカ

地域の人が力合わせ

袖ケ浦西小学校で8月21日、校内の環境美化を行う「袖ピカ」が行われた。

学校開放管理委員会とPTAが音頭を取り、教職員と一緒に安心、安全で楽しい学びの環境を作ろうと長年にわたって催されている。今年も「輝けピッカピカの袖西小」のスローガンの下、体育施設やグラウンドを使用する各種スポーツ団体のほか、子供を守る会、西小鹿の会、市民スポーツ指導員、地域の有志らが、地域を思い、力を合わせ、校舎と体育館では、子供たちでは難しい高所の窓ふきをはじめ、換気扇、照明など隅々まできれいに掃除された。校庭では草刈り機と鎌によって広範囲に雑草が刈られ、力自慢のスポーツチームの男性陣によって側溝の土砂が取除かれて、学校中が文字通りピカピカになった。

保護者は「暑い中、みんなで一緒に汗を流してすっかりきれいになりました。創立50周年を迎え、子供たちも気持ちを新たに、安心して過ごせると思います」と話していた。袖ケ浦西小では現在、第1期大規模改修工事が進められており、10月末には終える予定。

子供たちも草抜きに参加

隅々までピカピカ

郡上おどりの輪広がる

大久保商店街夏まつり

学園おおくぼ商店街の夏まつりが8月27日に開かれ、郡上おどりに大勢が参加した。

商店街での郡上おどりは平成23年、モリシア津田沼前広場で行われた復興支援イベントに共鳴して始められた。輪踊りは「郡上おどりやろまい会」のメンバーを中心に年々盛大になっている。

千葉県と郡上とは、鎌倉幕府誕生の功労者であった千葉常胤（つねたね）の六男・東胤頼（たねより）（東六郎大夫胤頼）の孫・胤行（たねゆき）が承久の乱の功績で、美濃国郡上郡山田庄（現在の岐阜県郡上市）を加領され、阿千葉山を居城にしたという歴史的な関係で結ばれている。以降、胤頼を始祖とする東氏は、下総国東庄の「下総東氏」と「美濃東氏」に分かれた。

今年のまつりには、東氏の里である千葉県東庄町から郡上おどりの踊り手20名が加わった。「かわさき」「やっちく」「春駒」の唄に合わせて踊りの輪は広がった。

商店街の三橋正文理事長は「踊りで縁がつながり、交流がもっとさかんになればいい」と話した。

郡上おどり

ラジオ体操の基本学ぶ

NHK講師迎え教師ら

習志野市教育委員会による「ラジオ体操DE健康タウンinならしの」が8月18日、東習志野小学校体育館で開かれた。

健康なまちづくりを推進する習志野市は、一般財団法人簡易保険加入者協会がNHKラジオ体操・みんなの体操の講師を派遣し、健康で明るいまちづくりを支援する「ラジオ体操DE健康タウン構想の推進モデル自治体」となっている。これまでシニア世代を対象に行われてきたが、今回は子供たちが正確なラジオ体操を習得できるようにと、小中学校の教職員と青少年相談員が集合した。

講師はラジオ体操で各地を巡回し、テレビ体操に出演するベテランの多胡肇さんと実技を披露する吉江晴菜さんが担当した。多胡さんは、3分10秒間のラジオ体操第一には「背伸びの運動」など13の運動があり、「全身をバランス良く動かすことができる。一つひとつの運動にそれぞれ目的と名称があり、細部にわたって考えられている運動だ」と解説した。「横曲げ」では、意識をしないと使うことのない胸の横の筋肉の伸展について説明され、筋肉を真横に伸ばすことで効果が得られることが伝えられた。

吉江さんが姿勢、腕や足などの動きを手本で示し、各部の力の入れ加減だけでなく、緩急のある動作によって起こせる伸展作用、末梢部分の刺激についても細かく教えられた。また、脳の意識と身体を操ることの関係もゲームを使って確認された。筋肉の動きの仕組みを、子供たちにわかりやすく教える工夫もアドバイスされ、参加者はこれからの指導に役立つラジオ体操を学んだ。

参加した中学校の教師たちは「意識して伸ばすと身体に随分負荷がかかるとわかりました」「これまでこれが当たり前だと思っていた体操でしたが、間違っていた部分に気づきました」「大変勉強になりました。ラジオ体操を授業に生かすことができれば良いと思います」と話していた。

東習志野小学校での「ラジオ体操DE健康タウンinならしの」

スポーツ団体推進

ジュニア育成

空手8団体が集結

千葉工大で講習会

習志野市空手道連盟によるジュニア育成事業「基本・組手講習会」が8月28日、千葉工業大学・茜浜運動施設の武道館で開かれた。

空手は東京オリンピックの実施競技に決まり、空手道に励む若者たちの意欲をさらに向上させている。空手道連盟では加盟8団体が一緒になり、これから成長するジュニア選手を育成しようと、小中学生らが参加する初の講習会を企画した。

指導には空手道連盟の根本功理事長が当たった。礼に始まった講習で、根本先生自らが模範となる型を披露し、実地で教えた。前蹴りでは相手に悟られないために、頭を動かさないことなどを手を取りアドバイスし、蹴りの練習量の大切さを伝えた。

素早い前蹴りから回し蹴りの連続技について行けない小学生も見られたが、自在な攻めを行うための姿勢が熱心に教えられた。組手の稽古では、千葉工大空手部の部員が手本を示しながら指導。参加者は流派を越えて、空手道の精進に汗を流した。

指導に協力した千葉工大の部員は「集中してケガがないように注意し、毎日の稽古で大会や昇段につなげてもらいたい」と子供たちにメッセージした。

空手道連盟のジュニア育成事業「基本・組手講習会」

敬愛大生が手ほどき

バレーボール技術向上へ

「ジュニアスキルアップバレーボール教室」が8月9日、東部体育館で開かれた。

この教室は次世代を担うジュニア選手の技術向上を目的として、選手育成に力を入れる習志野市バレーボール協会が催している。競技の裾野を広げ、全体のレベルアップを図ろうと今年で3年目を迎える。

会場では敬愛大学バレーボール部監督を務める宇木博己バレーボール協会会長が講師となり、集まった小学生と女子中学生を指導した。ジュニア選手たちは、敬愛大の部員による模範ゲームを観戦。アタッカー、レシーバー、セッターのポジションごとに手ほどきを受けた。迫力のあるプレーを身近に体験し、意欲的に練習する子供たちの姿が見られた。参加した中学生は「レシーブを中心に練習しました。腰の位置や手の動かし方などやさしく教えてもらい楽しく学べました」と感想を語った。

宇木会長は「習志野高校出身のバレーボール選手には、男子全日本の杉本公雄選手、蔭山弘道選手、女子でメダリストの古川牧子選手がいます。将来はオリンピックを目指してもらいたい」と子供たちを励ました。

レシーブの指導を受ける中学生